

## 北しりべし定住自立圏

## 第3次共生ビジョンについて

## ＜圏域市町村 第3次ビジョンへの意見集約＞ 8月～11月

## ●主な意見

- ①圏域の目標として、販路拡大のための、出荷・選果場所の広域化による効率化を図るようなことも考えるべき。
- ②圏域の課題として、各市町村の観光の取組を広域的に集約することによる強い情報発信が必要では。
- ③広域観光の推進について、圏域として統一性をもった特徴ある情報発信や観光イベントの相互PR・出演などの役割の具体化が必要では。
- ④生産者と消費者の連携による地産地消の今後の方向性として、後志ブランドの確立を促進すべきでは。
- ⑤圏域共通の課題として、高齢者だけでなく待機児童や保育士不足の解消と様々な分野での外国人も含めた労働者の確保についても検討すべきでは。
- ⑥広域観光の今後の方向性として、「ワインツーリズム」を位置付けてはどうか。
- ⑦地域公共交通の今後の方向性として、路線バスの廃止代替、公共交通空白地、高齢者対応のための多様な交通手段の検討を行うことを記載すべきでは。
- ⑧圏域の課題として、後志自動車道余市小樽間の開通などによる交通インフラの整備の進展と、積丹町に誕生するクラフトジン蒸留所や圏域内のワイナリー、ウイスキー蒸留所、酒蔵などの酒や食をはじめとする観光資源を活用した、新たな観光ルートの形成や情報発信による交流人口や関係人口の獲得ということに記載すべきでは。

## ＜有識者等によるビジョン懇談会の意見＞ 11月

## ●主な意見

## (取組全般)

- ①圏域で行われている様々な取組の情報を早く公開し、それを共有して結果を評価していくことが必要では。
- ②様々な取組のうち、本当にやれることを絞って、目標設定をして実際に行動することが必要では。
- ③絵花的な計画の中で、どこから取り組んで、優先的にこの地域のために貢献できるかといった視点での、めり張りがある優先順位をつけた取組が必要では。

### **(産業振興・広域観光)**

- ④人口減少に対応する意味でも産業の活性化が必要と思うが、**圏域内の様々な地域産業を横串を通した形で連携**することが必要では。
- ⑤**産業振興や観光の分野での実働部隊・現実的に売り込みをする組織**により結果を出していく形が必要では。
- ⑥仁木町では人口は減っているが、ある程度の新規就農がある。また、農家戸数は減っているが、売上げは右肩上がりである。
- ⑦インバウンドの受け入れについて、外国人と向き合うスタンスを5年、10年のスパンで考える必要がある。また、取組例としては、予算があるのであれば、地域の若者を海外留学させるような**人材育成の取組**についても考えていけたらと思う。
- ⑧今まで**当たり前**と思っていた**地域資源を違った視点でコンテンツとして更に再発掘**して、地域で連携しながら全ての分野において活用できればと思う。
- ⑨地域連携をしながら特長をいかして、**差別化・他でやっていないようなことに挑戦**する必要があると思う。

### **(医療・福祉)**

- ⑩後見センターを小樽に設置し広域で活用していることは効率的だが、周辺町村住民には不利益（不便）な部分もあるので、各市町村の責任をもった補填（フォロー）が必要では。
- ⑪夜間急病センターについて、働き方改革により時間外労働が厳密化されるようになると、現在の医師数では今後維持が難しくなってくる。
- ⑫医療機関と福祉や介護などといった、健康や予防の観点も含めて地域として包括的に連携していけるようなことも今後話題に出来ればと思う。

### **(教育)**

- ⑬**郷土史を学ぶような取組を連携**して行うことによって、地域としての底力の底上げや発展につながるのでは。

### **(地域公共交通)**

- ⑭乗務員不足のため、補助金を受けてもバス路線の維持が難しいため、路線バスに頼らない形の公共交通や2次交通について検討が必要と考える。
- ⑮地域公共交通を乗り継いでの観光は難しい状況であり、コミュニティバスの活用についての検討の必要も感じている。

## <第3次ビジョンの主な変更点>

### (第1章 圏域の将来像)

- 圏域イメージ図中、後志自動車道余市～小樽間を修正
- 「3 将来像実現の向けた目標」中「(2) 圏域の歴史や地域資源を活用した広域観光の推進と圏域内連携による産業の活性化」に  
「圏域の連携による効率化」を追記
- その他、文言・数値や圏域の将来人口等を修正

### (第2章 圏域の概況と課題)

- 「1 北しりべし定住自立圏の概況」中に、引用調査結果を変更した他、後志自動車道余市～小樽間の開通や、新千歳空港への直行便就航によるインバウンドの進展について追記
- 「3 北しりべし定住自立圏の課題」中、「(3) 高齢者などが安心して生活できる環境」に、圏域において安心して子育てが出来る環境の整備について検討していく必要性を追記
- 「3 北しりべし定住自立圏の課題」中、「(5) 圏域一体での産業の活性化」に、産業を支える労働力の確保について、圏域共通の課題として検討していく必要性について追記
- 「3 北しりべし定住自立圏の課題」中、「(6) 歴史や地域資源を活用した広域観光の推進」に、交通インフラの整備に伴う外国人観光客から新千歳空港～札幌～北後志圏域～ニセコを結ぶルートが注目を集め、今後、圏域内の酒や食、歴史、景観などを広域資源化し、それを情報発信することにより、交流人口等の増加を図る必要性について追記
- その他、文言・数値等を修正

### (第3章 これまでの取組状況と今後の方向性)

- 「1 生活機能の強化に係る政策分野」中、「(2) 産業振興」における「雇用支援及び起業の促進」について、第2次ビジョンより追加した事業であるため、取組事項、これまでの取組状況及び今後の方向性を追記
- 「1 生活機能の強化に係る政策分野」中、「(3) 広域観光」における今後の方向性に、長期滞在型観光へ向けた取組としてワインツーリズムを追記

- 「2 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野」中、「(1) 地域公共交通」における今後の方向性に、路線バスの廃止代替対応や、多様な交通手段の導入についての検討を追記
- 「2 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野」中、「(5) 圏域内外の住民との交流及び移住」における「圏域における情報共有・情報提供の充実」について、第2次ビジョンより追加した事業であるため、取組事項、これまでの取組状況及び今後の方向性を追記
- その他、文言・数値等を修正

#### **(第4章 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取組)**

- 「1 政策分野別共生ビジョンの体系」「2 政策分野別の事業概要」については、圏域市町村及び有識者等によるビジョン懇談会の意見においても、協定を変更し実施すべき取組について意見がなかったため、文言・数値等の修正のみを行う。
  - ※ 実施事業一覧についても同様
- 有識者等によるビジョン懇談会において、この取組の中で、**取組の優先順位や本当にやれることを絞って実施することについてなどの御意見があったため、「3 重点取組事業」の設定を行う。**

### 3 重点取組事業

本圏域の将来像の実現に向けては、生活機能の強化、結びつきやネットワークの強化及び圏域マネジメント能力の強化の各視点から、これまで「北しりべし定住自立圏共生ビジョン（平成22年度～平成26年度）」「第2次北しりべし定住自立圏共生ビジョン（平成27年度～平成31年度）」により、様々な事業を実施しており、今後も同様に取り組んでまいります。

一方で、札幌圏とのアクセス向上に大きく寄与する後志自動車道余市～小樽間が平成30年に開通したほか、新千歳空港への東アジア圏を初めとする国際路線の直行便就航等により、交流人口の拡大の機会が増えています。

当圏域ではこれまで、交流人口の拡大について、産業振興や広域観光、生産者と消費者との連携による地産地消などの各事業により取り組んでまいりましたが、本ビジョンにおいては、当圏域の現況と課題に鑑み、交流人口の更なる増加を図るため、以下の事業を重点取組事業とします。

#### ○ 広域観光

##### ● 広域観光推進事業

<事業内容>※ p. 27再掲

##### ・ 圏域内の観光情報を発信

圏域は、豊富な自然、歴史、文化、農水産物の資源を有していることから、新たな観光資源を発掘※1するとともに、小樽市を起点とした新たな観光ルートを創出し※2、札幌圏やクルーズ客船の乗船客等に対し、圏域に隣接する倶知安・ニセコなど後志管内町村と連携して情報を発信し※3、圏域内の周遊性を高める取組を推進します。情報発信においては、圏域としての特徴のある情報発信を検討します。

##### ・ 観光物産センター等での連携

圏域内にある観光物産センターなどを訪れる観光客に対し、圏域内の情報がどこでも提供できるように連携※4を図ります。

#### <特に進める取組の内容>

本ビジョンに掲載している事業内容に関連し、特に以下の取組を進めます。

##### ① 圏域内の新たな観光資源の発掘（※1）と情報提供の連携（※4）

⇒既存の観光資源の他に、圏域内の酒や、豊かな食、歴史や景観など、様々な角度から観光資源としての活用について検討を行う。また、圏域内の既存の施設などを活用し、観光情報等の発信について連携を図ります。

##### ② 新たな観光ルートの創出（※2）と情報の発信（※3）

⇒①による観光資源について観光ルートの創出を行うとともに、交流人口の獲得に当たって、ターゲットの設定を行い、効果的な情報発信を推進する。

#### <他の政策分野との連携等>

この重点取組事業の推進にあっては、他の政策分野との連携を図るほか、取組内容の達成状況により、重点取組事業の変更を本ビジョンの変更に合わせて検討するものとします。

## ＜重点取組事業の進め方等＞

(令和2年度～3年度)

「※1 圏域内の新たな観光資源の発掘」「※4 情報提供の連携」

⇒既存事業「6市町村圏域 PR 事業」(企画政策室)と「広域観光事業」(観光振興室)などを通じて検討・実施。検討体制については「小樽・北後志インバウンド推進協議会」(観光振興室)を想定するが、適さないのであれば新たな検討組織を設置。

(令和3年度～4年度)

「※2 新たな観光ルートの創出」「※3 情報の発信」

⇒令和2年度～3年度 of 取組で議論した内容により、観光ルート等について情報発信を行う。情報発信については、既存事業である「観光客誘致対策事業」との連携を図るほか、媒体については、「既存のWEBサイト・フェイスブック」(企画政策室)を活用する他、その他の媒体による情報発信についても検討・実施する。

(令和4年度～6年度)

「ビジョンに掲載されている他の政策分野(事業)との連携」

⇒令和2年～4年度までの取組による成果について、他の政策分野と連携について検討・実施

- ・「移住・交流促進事業」による1次産業(農業など)をテーマにした移住促進
- ・「安全で安心な農水産物生産支援及び活用促進事業」及び「地元農水産物魅力度アップ事業」、による1次製品の生産促進や地産地消
- ・「地域ブランド販路拡大推進事業」による販路拡大
- ・「文化財、史跡等保全・活用事業」による文化財の活用促進
- ・「地域人材育成事業」による人材育成

## ＜今後のスケジュール＞

- 令和2年 1月 6日（月）～10日（金）原案意見調整
- 1月22日（水）～ 2月21日（金）パブリックコメント
- 3月上旬 令和2年第1回定例会総務常任委員会にて報告
- 3月中旬 第2回北しりべし定住自立圏 市町村長会議
- 3月下旬 パブリックコメント 意見に対する考え方公表
- 3月下旬 第3次北しりべし定住自立圏共生ビジョン公表